

特集

【挑 戦】

Challenge

ボクにとっての挑戦

かわず

「挑戦」というテーマでコメントして欲しいといわれ、ちょっと懐かしい気持ちになりました。以前も似たような状況に遭遇し、ボクにとって「挑戦」とはなんだろうかと、そもそもボクは何かに挑戦してきたらと思う悩み、ずいぶん苦しい時間を過ごしたことを思い出したからです。当時のボクは、バカがつくほどまじめで、お堅い面があって、「挑戦」というくらいだから何か立派なことを言わないといけないのではと思い込み独り苦しんでいたあと。

今のボクにとって「挑戦」とは、自分にとっては途方もなく難しいことに思えるけれど、そうなったらいいなと思うこと、そのためなら時間を費やすことも悪くはないなと思えることに挑むことというくらいに考えています。

ここ数年は、自分が存在する空間をより楽しいものにするためにボクは挑戦しています。周りにいる人たちが楽しいと感じられる空間を提供することに挑戦しているといってもいいと思います。

ボクがこのような「挑戦」をしているのには、もちろん理由があります。それはボク自身がワクワクしながら毎日を生きていたいからです。ワクワクしながら日々を過ごすのは実はけっこう難しい。自身を振り返ってみると、くじけそうな時、ワクワクすることを忘れそうになった時は、周りの人たちがや空間そのものに刺激を受けて、助けられてきました。だから、みんなが楽しいと感じられる空間を作りたいと思っているし、ボクもできれば周りの人たちに刺激になったり、助けになったりできたらなと思っています。

周りの人たちがワクワクしながら日々生活をしていたとしたら、そんな空間は絶対に楽しいと思うし、それだけでも、かなりエキサイティングだと思います。

そんな空間を演出できるように、ボク自身、毎日楽しく生きていこうと思っています！

Everybody is Challenger Everyday

挑戦雅

「挑戦」というと、非常に難しいこと、例えば成功率が10%くらいのこと立ち向かうことを一般的にイメージするかもしれない。または、その文字からして、戦いを挑むようなことをイメージするかもしれない。しかし、個人的には成功するか否かや戦いか否かに関わらず、普段と異なることを行えば、それは挑戦だと思っている。

身近な例で言えば、普段とは異なる通勤経路をとれば挑戦だし、行ったことのないレストランに入れば挑戦だし、あまり話したことのない同僚に声をかけてみることも挑戦だ。別の言い方をすれば、未知の経験をすることが挑戦である。そういった意味で言えば、誰でも毎日挑戦をしているはずである。

普段とは異なる通勤経路では、少し遠回りするだけで電車の椅子に座れることを発見するかもしれない。行ったことのないレストランでは美味しくかつ安い料理に出会えるかもしれない。あまり話したことのない同僚と話した結果、同じ趣味を持っていることがわかり、話がはずむかもしれない。ちょっとした好奇心を持って挑戦するだけで、自分の世界が大きく広がる可能性がある。

逆に、普段とは異なる通勤経路では、もっと満員電車で辛い思いをするかもしれない。行ったことのないレストランでは不味い料理にあたってしまうかもしれない。あまり話したことのない同僚と話した結果、予想通り話して話がはずまないかもしれない。でもそれはそれで現状が恵まれていることを再確認できたり、自分に足りないものに気づかされたりと、有益なことが多い。

誰でも毎日、無意識のうちに挑戦をしているが、さらに意識的に挑戦をすれば、自分の世界をより大きく広げられるはず。しかも挑戦といっても、ちょっとした好奇心さえあれば誰でもできるもの。ノーリスク、ハイリターン。私は常に「挑戦者」で居続けたい。

【挑 戦】

Challenge

私の挑戦

M.I.

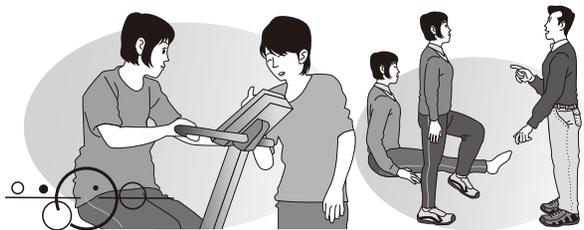
最近、「年始の目標、つづいていますか？」というキャッチコピーを見かけました。このコピーは私の通っているスポーツジムに掲示されていた記事に書かれていました。この記事によるとスポーツジムに長く通うコツは、無理のない頻度にて通い続けることだそうです。

私がスポーツジムに通うきっかけとなったのは、体の調子が良くないなと思いはじめたことでした。日頃からの運動不足を自覚し、まずは運動する習慣をつけるために、スポーツジムへ通い続けることを目標に入会しました。その後、入退会を繰り返しながらも10年近く通っており、運動する習慣をつけるという当初の目標は達成できたように思います。

スポーツジムにて筋トレを行うようになり、体調が良くなったように思います。以前の私は、長い時間座っていると腰が痛くなるという日々が続いていました。今では腰の痛みは軽減されており、運動する習慣は私の体により効果をもたらしているようです。

ところが昨年の人間ドックにて、体重が思っている以上に増えていることがわかりました。疑問に思いつつも心当たりがありました。スポーツジムでしっかり運動した後は、おなかがすくようになり、食べる量がどうやら増えていたようです。仕事終わりにスポーツジムへ通うため、帰宅後の夕食が遅い時間になっていました。また、年齢を重ねるにつれ、カロリーの消費量も減ってきているのでしょうか。おそらく、このあたりに原因があるのではないかと思います。

運動した後は体の調子がいいので、これからもスポーツジムに通うことは続けようと思っています。体重の維持という次の目標に向けて、無理のない頻度にてスポーツジムに通うことにしようと思います。私の挑戦は、まだまだ続きそうです。



挑 戦

Japanese

- ① 「周りの空気を考えて動く」
- ② 「ダイレクトにYES/NOを言わない」
- ③ 「一緒にいる人に対する配慮を」

など、日本にはたくさんの暗黙のルールがあると思います。

① 周りの空気を調整しながら、物事を進めていくのは、確かに日本人同士ではかなり有用な方法だと思います。ところがこの間、駅近くの商業施設に寄ったところ外国からいらっしゃった観光客に取り囲まれました。元気で勢いのある方々で、自分自身の意志をはっきり持たないと、その場で何が欲しかったのかを忘れそうな瞬間でした。

周りの空気を読む以上に、しっかりと意志を持ち国際社会でリーダーシップを取っていける若い世代が育って欲しい。そのような夢が生まれた瞬間でした。

② 日本は、未だに婉曲表現が好まれる社会だと思っております。①とも関連しますが、国内では周りの空気をリードした側が事実上の決定権を持ちます。

慎重で繊細で細心な部分は我々の美德ですが、他国の人を前にした際にそのような道徳心をもったうえで合理的かつスピーディに物事を決めていける次世代の輩出を、東京五輪開催後も期待しています。

③ 他人指向型社会は素晴らしいです。しかしながら、他人の機嫌を取り続けるのは大変なことだと思います。

そもそも我々にはお互いの足を引っ張り合う同族嫌悪に使う時間は、残されていないと思います。各人が他人ではなく自分の機嫌を取るという態度に改めれば、更にそれぞれの良い部分を引き出していける文化に変わっていくのではないのでしょうか。

お互いに対する引き算ではなく足し算が、最終的には掛け算になっていくことを理想として、「挑戦」という題を締めくくりたいと思います。